

年頭之祝儀追而可申入候。

就委許之儀、態被差越御飛脚候。御懇之儀畏入存候。仍御祈禱之御卷數被懸御意候。目出度令頂戴候。隨而舊冬當國牢人雖出張候、及不慮之一戰即時切崩、早速無事之姿候之條、乍恐可御心安候。始末自紹春申入候由候間、不能再述候。旁期來信之時候、恐惶謹言。

二月十四日

續 宗 在判

栗棘庵 尊報

溫井兵庫助

栗棘庵 尊報

續 宗

三月十三日。長尾景虎、加賀御山に至りてその上洛の途を開かしむるに盡力せる信濃笠原本誓寺超賢の功を賞して越後に移住を勸む。

【本誓寺文書】 越後

一三五六

態令啓入候。仍而去年景虎上洛之刻、於三國邊面談、種々御懇意本望至極ニ存候。殊ニ加州上下路次傳ひ、無相違被成御案内者候。向後之儀も御馳走可被頼入候然

者去年貴僧御懇之儀、一段大慶ニ被存候間、御本寺に暇

御申御下著、御門徒衆にも御見參候而、當國之中何方へ成共御居住可爲簡要候。縱於世間表裏之者、何篇之儀を申廻候共、少弼覺悟一旦被承分上ハ、別條之儀有之間敷候。貴寺御刷故、加州小山之御坊主様、路次之往還御持満足被存候間、必ず御下國候ハ、少弼御對談可被申候。左様に候得者、御門徒御繁昌可有之候。猶爰元吾々馳走可申候間、少も御疑心有之間敷、巨細之段御同宿可有御口上候間令省略候。恐々謹言。

庄田總左衛門

三月十三日

定 賢 在判

本庄 入道

宗 綏 在判

本誓寺

參御同宿中

(天文廿一年四月四日の條參照。この後超賢は寺を越後春日山の東に建し、永祿元年七月十三日遷佛式

を擧ぐ。

六月三十日。能登守護畠山義綱の被官平堯知、山城東福寺栗棘庵が去年の錯亂に就き書を與へたるに答ふ。

【栗棘庵文書】 山城

一三五七

御札本望此事情。如仰去年者、當國不慮ニ雖及錯亂候、早速屬靜謐、公私大慶不過之候。仍而扇子五本被懸御意候。畏悅之至候。隨而御庵領之義、聊疎意無之儀候。就中雖左道候、青銅百疋進入候。併表祝儀計候。猶重而可申入候。恐々謹言。

六月晦日

堯 知 在判

栗棘庵 貴報

平新左衛門尉

栗棘庵

堯 知

貴報

(本文書を加能越古文叢に天文十七年かとするものは非なるべし。)

弘治元年

五六七

天文廿四年

乙卯

弘治元年

十月廿三日 紀元二二一五 改元

八月十四日。朝倉義景、鳥居與一左衛門に、その江沼郡に於ける戦功を賞す。

【鳥居文書】

一三五八

去月廿五日、加賀國於江沼郡合戦之時、被切疵一ヶ所、忠節神妙、彌可抽戰功者也。恐々謹言。

八月十四日

在判

鳥居與一殿

【鳥居文書】

一三五九

去月十七日、加賀國於江沼郡合戦之時、被切疵忠節神妙、彌可勵軍功者也。恐々謹言。

八月十四日

義 景 在判

鳥井與一左衛門尉殿

(前掲二通はもと同一文書にして、互に傳寫の誤あ